

防衛大臣 小野寺 五典 殿

外務大臣 河野 太郎 殿

## 相次ぐ米軍ヘリ不時着に抗議し、在沖全米軍機の飛行停止等を求める申し入れ

危ないものは飛ばさない。実に当たり前のことだ。それすら守られていないのが今日の沖縄である。

去る1月6日、うるま市伊計島の海岸に米軍普天間基地所属のUH1ヘリが、8日には読谷村の行政事務組合敷地内に同基地所属のAH1Z攻撃ヘリが、相次いで不時着した。

3連休の間に2度も米軍ヘリが不時着するのは、異常事態を超えた非常事態としか言いようがない。昨年来、毎週のように続発している米軍機の墜落・不時着事故や部品落下を深刻に受け止めず、米軍を野放しにし、飛行再開を容認し続けてきた政府が招いた緊急事態である。

沖縄では、整備不良の米軍機が県民の頭上を好き勝手に飛び交っている。異常事態が常態化しているのである。かかる状況をこれ以上放置すれば、近い将来、人命にかかわる事故が発生するのは目に見えている。その自覚すらなく、米軍の運用に目をつむり、県民を危険にさらし続ける政府に、もはやこの国の安全保障政策を語る資格はない。

この期に及んで不時着を「予防着陸」「緊急着陸」と言い張るような態度をとれば、県民の怒りの火にさらなる油を注ぐだけである。今や米軍に対する県民感情は憎悪にまみれている。事態はそれほどまでに緊迫していることを日米両政府は知るべきだ。

危ないものを飛ばすな。その地に暮らす人々の肌感覚を無視すれば、いずれ人命を脅かす大惨事を招くことになる。

以上、140万県民の怒りの代弁者として厳しく抗議し、警告する。政府には、在沖米軍基地所属全軍用機の飛行運用停止及び一切の外来機の飛来禁止を直ちに米軍に要求し、実現させるよう強く求めるものである。

2018年1月10日 沖縄県選出国會議員

衆議院議員 照屋 寛徳

衆議院議員 赤嶺 政賢

衆議院議員 玉城 デニー

参議院議員 糸数 慶子

参議院議員 伊波 洋一